

人に学び、地域に学び、自己の生き方を考えよう
～ボランティア活動を通して、自分にできることを考えよう～

日立市立駒王中学校

1 はじめに

本校は、今年度、『学校運営協議会を生かした、ともに子どもを育て、ともに地域を創る「地域とともにある」学校づくり』を1つの柱に、「夢や希望を抱き、たくましく生きる生徒の育成」という本校の教育目標実現に努めている。その中で「総合的な学習の時間」では「人に学び、地域に学び、自己の生き方を考える」を大きなテーマに据え、各学年、体験活動を工夫し、体験したことをまとめる中で言語活動の充実を図っている。

今回は、直接体験や人との交流を通して、課題をよりよく解決することを目標に掲げている1学年の実践を紹介したい。本校はJRCに昭和24年に加盟し、日立地区の中心校として長年活動してきている。それも踏まえて第1学年ではボランティア活動を体験活動の中心に据え、自分にできることを考える学習を展開している。

2 授業の実際 ― ボランティア活動を通して、自分にできることを考える ―

(1) 単元の目標

- ① 自分たちが住む地域やそこに住む人々に関心をもち、地域の人々から多くのことを学び、これからの生活に生かしていこうとする意欲をもつことができる。
- ② 地域の人々との関わりやボランティア活動をする中で、様々な人々の生き方を知り、自分の生き方について考えることができる。
- ③ 自分の課題を追究するために適切な調査活動・体験活動を展開し、学んだことを自分の思いや考えを自分に合う方法を用いて表現することができる。
- ④ ボランティア活動を通して、社会に貢献することの意義や地域を支える存在としての自分を高めていくことの大切さに気づき、生き方を創造することができる。

(2) 単元全体の構想

ボランティアとは一人一人の幸せを願うことであり、具体的な体験を通してボランティアについて考えていくことは、生徒自身の生き方を問うことにつながるものと捉えている。だからこそ初めからボランティア活動ありきではなくて、自分たちが社会の一員として期待されていることを知り、社会に貢献することの1つとしてボランティア活動を考えさせたい。

また、家族関係が変質し、家庭の問題が顕在化しているうえに、社会全般の急激な情報化もあり、直接人と上手に関わるできない生徒が増えているのは確かである。そのため、学校教育の中で他者と関わるコミュニケーション能力を育てることが重視されている。

ボランティア活動を通し、社会には様々な立場の人がいることや、相手を理解することの大切さに気付くことが期待される。

(3) 年間指導計画

単元名	ボランティア活動を通して、自分にできることを考える		
活動構想と内容	4月～7月 ・心豊かな体験学習プラス ・ボランティア活動の計画・実践・振り返り	9月～12月 ・新たなボランティア活動の実践と振り返り	1月～3月 ・職業調べ
	・地域の一員として何ができるか考え、ボランティア活動を計画し実践する。	・反省から新たなボランティアを計画実践し、報告会をする。	・職業について調べたり職業人から話を聞き働くことの意義を考える。
活動の支援	・地域の方々から話を聞く会を実施し、活動への意欲付けを図る。	・課題意識を育てるために、話し合い活動の時間を確保する。 ・相手意識を大事にさせる。 ・レポートの書き方の指導。	・多くの情報を集めるとともに、内容を分かりやすくまとめられるよう支援する。
評価	・学習への主体的・創造的な態度 （話し合い・ワークシート・体験活動） ・表現力、情報活用能力、自己の生き方 （作業・発表・ワークシート）	・学習への主体的・創造的な態度 ・表現力、情報活用能力、自己の生き方 （話し合い・作業・発表・ワークシート）	・学習への主体的・創造的な態度 ・表現力、情報活用能力、自己の生き方 （体験活動・作業・発表）

3 実際の活動「自分たちにできるボランティア活動」

(1) 事前の学習

① 「地域の一員として何ができるかを考える会」実施

ねらい：ボランティア活動の意義を再確認するとともに、地域におけるボランティア活動に積極的に取り組もうとする意欲と実践力を培う。

内 容：地域の方から、地域が行っているボランティア活動や地域から見た中学生、中学生に望むことなどの話を聞く。

＜地域の一員として何ができるかを考える会＞



※ 生徒は講師の方の話に真剣に耳を傾け、1年生なりに地域でどのような活動ができるか考えていた。

※ 生徒の感想や事後の活動等を学年便り特別号として作成し、地域の交流センター（2箇所）に掲示した。

＜生徒の感想＞

○地域で行われている活動がたくさんあることを知らなかったのが、恥ずかしくなった。今回知ることができたのでそれを生かしていきたいと思う。

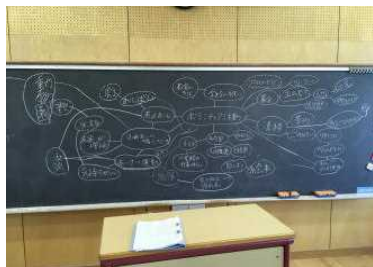
○私の町内には町内会がないので、地域の人との関わりは少ない。宮田学区、中小路学区のボランティア活動に参加し、地域の人との関わりを増やしていきたいと思う。

○私たちは見えないところでいろいろな方に支えられていることが分かった。今度は私たちが支える番だ。部活は忙しいけれどJRCのボランティア活動に参加したい。

② 自分たちにできるボランティア…ウェビングにより連想を広げ活動の幅を広げる。

〈生徒たちから提案があったボランティア活動〉

宮田川清掃	小学校の土曜学校への協力	地域の清掃活動
ベルマーク集め	ペットボトルキャップ回収	あいさつ運動
雑巾を縫って施設に贈る	地域から要請があったボランティア	



※総合的な学習の時間はもちろん、学年生徒会や学級活動でさまざまなボランティアにどのように取り組むか話し合ったり、計画を立てたりした。

(ボランティアについて考えを広げたウェビング)

(2) 実際の活動 〈ボランティア活動の実施〉

① 宮田川清掃 (6/10)

1年生105名中52名が参加した。同日に実施された「土曜学校」にも1年生2名が参加し、上級生とともに活動することができた。



(一生懸命草を運ぶ生徒の姿)



(土曜学校の調理の手伝い)

② 地域の清掃活動 (7/5)

1回目：平和通り・日立駅周辺、神峰公園のゴミ拾い、学区内の公園のトイレ掃除



(3) 事後の活動

〈反省〉

- ・ゴミがたくさん落ちていて驚いた。特にたばこの吸い殻が多く、公共のマナーは守ってほしい。
- ・公園のトイレは臭いがきつかった。磨いたらきれいになり気持ちがよかった。
- ・トイレに落書きがあった。公共の場の使い方はみんなが注意しなければならないと思った。

(4) 新たなボランティアの活動

事後の反省をもとに、地域の清掃を継続して行うこととなった。2回目は特に、学区内公園のトイレ掃除と落ち葉掃き、学区内の危険箇所のリサーチとなった。

また、雑巾を縫って近くの介護施設に届ける活動と、ペットボトルキャップ回収が新たな活動として計画・実践された。

① 雑巾縫い



(介護施設に届ける雑巾縫い)

② 地域に出でのボランティア活動



(けやき通りの掃き掃除)



(学区内の危険箇所のリサーチ)

③ ペットボトルキャップ回収

<生徒たちから提案があった事項>

- 意欲的に取り組むために学級対抗にしよう。
- 兄弟学級にも協力を仰ぎ、学校全体のボランティアに広めていこう。
(活動への協力依頼 回収ボックスの設置)
- 文化祭(茜祭)で「総合的な学習の時間」の活動報告を行い、ペットボトルキャップ回収への協力を呼びかけよう。
 - ・800個のキャップで1人分のポリオワクチンが購入できること
 - ・NPO 法人「ひたち夢元気プロジェクト事務局」を通し、NPO 法人「燦」に送ること



1組 9,194 個
2組 15,755 個
3組 11,128 個
計 36,077 個が集まった。

5 成果と課題

(ポリオワクチン 45 人分)

- ボランティア活動について考えるきっかけとして「地域の一員として何ができるかを考える会」を実施したので、話を聞きながら自分を振り返り、新たな課題に気づくことができた。そのため、やらされているという意識から、地域に期待されているから進んで取り組もうという意識を育てることができた。
- 今年度から学校課題研究で特別活動に焦点化して取り組んでいるので、総合的な学習の時間でも、話し合い活動の充実を図ってきた。実際にボランティア活動の計画を立てる場合でも、自分たちで計画し実践することができた。自己評価(5段階評価)をしたところ、「5」が52%、「4」が45%という高い結果であった。生徒にとって満足できる活動だったことがうかがえた。
- 今回のペットボトルキャップ回収のように、様々なアプローチをすることで、意欲を継続させることが確認できた。JRC委員会からいろいろなボランティア活動が呼びかけられるので、常時活動とともに積極的に参加できるよう支援していきたい。
- 「総合ファイル」を準備し、学習や活動の記録をポートフォリオとして積み重ねてきた。それを生徒一人一人の自己達成感や自己有用感につなげるためには、年間の指導計画を改善し、さらに明確にしていかなければならないと感じている。